

会報◎男性介護者と支援者の全国ネットワーク

男性介護ネット通信

No.6
2011.1ひとりじゃない。
生きる勇気がわいてきた。2011年1月●発行
「男性介護ネット通信」
通巻6号発行●
男性介護者と支援者の
全国ネットワーク
<http://dansei-kaigo.jp/>
info@dansei-kaigo.jp

男性介護ネット

第1回
会員調査第一報を
お届けします男性介護ネット運営委員
斎藤貞緒

男性介護ネットでは、二周年を迎えるにあたって、初めて「会員調査」を実施しました。

二〇一〇年九月、「男性介護ネット通信」に同封して、会員約五〇〇名（団体を含む）に「介護当事者調査」と「OB・支援者調査」を配布しました。調査項目は、介護者および被介護者の方の基本的な属性および介護生活（介護期間や要介護状況、健康状態、大変なこと、心がけていること、頼りにしている人など）、介護サービスの利用状況、介護と仕事との両立、男性介護ネットの活動について（入会のきっかけ、役立っていること、今後期待する活動など）と、多岐にわたっています。どのような方々が会員になっているのか、介護の実態を知ると同時に、介護サービスの利用にあたって経験したトラブル、仕事との両立で困っていること、改善してほしい制度・サービスなどを明らかにすることによって、今後のネットワークの活動に反映させたいということと、同時に、より広く社会的な提言につなげていく狙いがあります。

二〇一〇年九月三〇日までの段階では、当事者から一三通、そしてOB・支援者から一八通の回答がありました。締め切りを過ぎた後も、さらに十一通の回答がありました。総数での分析については、二〇一一年三月の総会の場で、みなさんに詳細を報告する予定ですが、本号では、二〇一〇年九月末の段階でのデータ（とりわけ「当事者調査」「一三通」をもとに、主たるポイントを別紙にまとめてお伝えしたいと思います。ぜひご参照下さい。

INFORMATION 3月12日▶13日

3月総会のお知らせ

日時:2011年3月13日(日) 午前10時~12時

場所:立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1階カンファレンスルーム

記念式典:午後1時~4時 記念講演:荒川不二夫(当ネットワーク代表)

ブレ企画①▶男性介護研究会シンポジウム(以学館4F 5号教室)

「家族であること、介護すること—在宅と施設のあいだ—」

講師:早瀬圭一先生 日時:2011年3月12日(土) 午後1時~4時30分

ブレ企画②▶男性介護ネット前夜祭(末川記念会館レストラン・カルム)

日時:2011年3月12日(土) 午後5時~7時

東京
立流会 家族介護を考えるつどい

日時:2011年2月5日(土) 午前10:30~

場所:三鷹駅前コミュニティーセンター

基調講演●「地域で支える家族介護」

お申し込み/東京都社会福祉協議会
東京ボランティア市民活動センター
TEL.03-3235-1171/FAX.03-3235-0050
web.http://www.tvac.or.jp/



全国パーキンソン病友の会しおり
特別号 介護体験記集 No.2
男の介護

全国パーキンソン病友の会医療・介護部・編 価額500円

全国パーキンソン病友の会の発行する介護体験記集の男性介護者版。13篇の介護体験が収められ、女性の側からの介護体験とは違う悩みや思いがちりばめられている。どの介護者も真摯で、精一杯介護する姿に夫婦の絆が透けて見える。



里村良一写真集
たくさんの愛をありがとう、認知症の妻と十年
愛・燦々

里村良一・著 非売品

グループホームでの食便行為を機に、写真を通して妻と向きあうようになった筆者の記録。何気ない日常の中に、家族のあたたかさがにじむ一冊



かいごさぶらい(I)
ただひたすら 母にさぶらう

宮城一夫・著 (株)データクロス/頒価

阪神淡路大震災で被災し、そのショックから認知症を引き起こした母。マンションに移り住み、症状が一気に進み、私は呆然と立ちすくむ。介護の記録をブログで発信し続け、溜まった1年分の記録を構成・加筆した生の男の介護記録。

番外編

出版物ではありませんが、野瀬義昭さんは「介護通信」として1996年から妻の介護記録を新聞形式で発刊し続けています。もともとは3人のお子さんたちに母親の病状を知らせるために作ったものが、十数人のご友人にも配布されるようになり、現在は400号に届こうとしています。

表示価格はすべて税込みです



第3回 男性介護者「介護体験記」募集

「語る」ことが、介護環境を変える力になる

手記・随筆・短歌・川柳... どのような形式でも、結構です。
あなたの介護体験をお聞かせください。

募集期間 2011年1月15日(土)～3月31日(木)

募集内容 介護体験ならなんでも結構です。
(特に次のテーマについて、皆様の体験をお待ちしています)

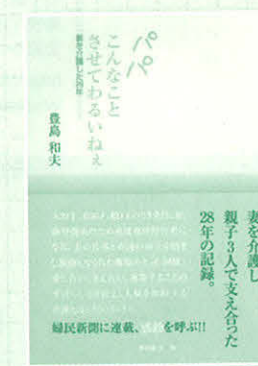
①「介護の工夫やストレス対処」 ②「仕事と介護」 ③「介護と家計」

詳細は事務局にお問い合わせください (TEL: 075-811-8195、E-mail: info@dansei-kaigo.jp)

「男性介護者100万人へのメッセージ 第2集」で下記の誤りがありましたので、お詫びし訂正します。
・P26 (下から2行目) ただし→若し ・P37 (左段7行目) 植木など→植木等

好評
発売中!

第2弾
男性介護者100万人への
メッセージ～男性介護体験記～
会員価格1000円/非会員2000円(送料込)



パパこんなことさせて
わるいねえ
妻を介護した28年

豊島和夫・著 夢企画大地出版/定価1,500円

夫39歳、妻36歳、娘4歳のとき突然、妻が脳脊髄炎のため重度身体障害者になる。夫の仕事と介護の両立を励まし援助してくれた職場の上司、同僚。愛し合い、支え合い、連帯することの素晴らしさを伝え、人権を保障する介護とはを問ひかける。



連れ合いが呆けてゆく
老後の誤算

田中章介・著 文芸社/定価567円

定年後はゆつくりと共白髪で余生をと思っていた矢先に妻が認知症に…。高齢化社会とともに増えてきている老々介護の一端として、妻の発症から経緯を紹介する貴重なエッセイ。



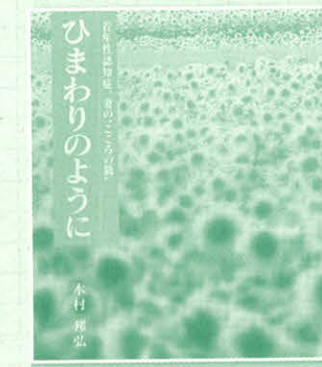
当ネットワークの発刊した「男性介護体験記集」が好評を博していますが、自費出版なども含め、男性介護者の記録集がたくさん出版されています。その一部をご紹介します。



スロー・グッバイ

内藤定一・著 青磁社/定価2,625円

アルツハイマーの妻との19年間。軽いタッチと軽妙なユーモアを織り交ぜながら、認知症と向き合う重いテーマを綴った600首。しかし、その最期はあまりにも儚く淡かった。思わざりスロー・グッバイの終着はテールランプを消すより易く。



妻へ、私は貴女に
何ができますか

村松正男・著 文芸社/定価1,260円

妻、雅子が「若年性アルツハイマー病」と診断されて5年の歳月が流れた。異変に気付いたころは、まだ妻51歳。充実した人生を謳歌する、ごく普通の主婦であり、母親であった。妻の半生を写真で追った家族の記録。



妻へ、私は貴女に
何ができますか
アミロイドーシス・骨髄腫との闘い

2年間の検査でもわからなかった病名が告げられた。“全身性アミロイドーシス”聞きなれない難病。タンパク質の一種が、全身、または局所的にさまざまな組織や器官に沈着し、機能不全を起こす原因不明の難病である。妻は30年も私を支えた。今度は私が支えるのだ。治療の難しい難病に骨髄腫を併発した妻を支える、男の介護記録。

会員からのお便り

妻が歩行困難に、 何かいい方法は

▼秋田県・Oさん 75歳

七四歳の妻は、歩行が困難になってきました。歩行時は私が両手を引いて歩かせ、洗顔、歯磨き時は片手で支えて行いますが、先日転倒させてケガをさせ、通院しています。乗車、降車、病院内の歩行、待ち時間中の排泄問題と、苦勞しています。自分で食事をとれない、自分の意思を表明できない問題もあり、七五歳の男にとっては限界を超えています。入院させれば、という人もいますが、私を認めて喜ぶ妻を見ていると、判断もつきかね迷っています。何かいい方法はないのでしょうか。

「語る会」立ち上げたいが、 アドバイスを

▼兵庫県・Nさん 59歳

母の介護が通いから、泊り込み介護が変わってから、昨年来から考えていた「男性介護者の語る会」の立ち上げも予定通りに進まず、行き詰っています。

頼りのNさんも、卒論の対応で余裕をなくされているようで、こは私自身の心機一転でいろいろ策をこらしているところです。

事務局体制をどうするかが当面の課題かと思っています。やはり仕事と介護を両立させるのが精一杯で、時間的余裕がありません。ネットワークもなく、たいしたスキルもなく、手探りですすめるにも大変な負担感を覚えます。

どのような支援を求めればいいのか、支援者がいるのか、アドバイスいただければ幸いです。

私自身提供できるものとして、元喫茶店を「集い場」として提供できることと、興じては吟詠の披露・指導ができるくらいです。これをツールとしてどう生かせばいいのか、ご教授宜しくお願いいたします。

胃ろう造設したが後悔

▼石川県・Yさん 65歳

若年認知症を発症して一〇年の妻（六一歳）を在宅で終末期介護している。飲み込み困難の症状から脱水症状、低栄養状態となり、

入院となった。医師から胃ろう造設することで栄養状態も良くなり、介護負担の軽減にもなるとのプラス面の説明を受け、胃ろう造設を受け入れ、自宅退院して四、五日は順調だった。しかし、下痢症状出現と発熱（三八度）状態が続き、誤嚥性肺炎で再入院となった。胃ろうから反固化栄養を注入しても、肺炎が起きる可能性は否めないと言う。胃ろう造設後も痰の量が増え、その痰による誤嚥がおきる。医師の説明では気持ちが悪くないでいる。抗生剤点滴で戦っている妻を見つめていると、つらいものがこみ上げてくる。この状況を介護家族として共通にできるネットワークが地域（石川県）に作られたらと願う。在宅介護中で能動的に動けないが、近くに話し合える仲間がいればリフレッシュできるのだが。

介護一〇年、その秘訣

▼奈良県・Iさん 74歳

若年性アルツハイマー病の妻（六八歳）を一〇年間介護してきました。今も在宅で、外食、外出

をヘルパーさんの支援で行っており、家でも普通食です。なぜこのようなことが続けられたかを振り返ってみますと、

①介護をしている私自身の心と身体に健康に気をつけてきたこと。

②本人も私も不安、どうしていいかわからない時から、楽しく、をモットーに歩いて歩いて、電車に乗って花見など、二人徘徊してきたこと。

③認知症の原因となっているアルツハイマー病について、本を読みあさり、病気の性質を知ったこと、本人をいつも観察してきたから、症状の移り変わりを（一部の本を参考に）正しく知ったから。

④今のあるがままを受け入れ、課題をもって介護してきたから（課題をもてたのは五、六年後です）。

⑤隠さず、多くの人々の助けを求め、家族会で情報を得たから。などです。

三〇年介護した妻と わけあって離婚

▼大阪府・Mさん 63歳

今春、離婚したのを機会に改名しました。本名の「隆夫」名の「夫」という呪縛から解放されたかったからです。結婚一年後の出産で精神病になった元伴侶を、その後三〇年間介護してきて、疲れ果て、経済的にも破綻したため、離婚して本人に生活保護を受給して十分な医療や福祉サービスを受けさせるため。私自身一三歳で斑点紫斑病（難病）を発症。二〇年もの闘病生活と元伴侶の介護で半世紀も病氣と介護で明け暮れた。両親、義父母の逝去を機に自分の人生を生きていくことにした。自分の経験を活かし、男性介護者への相談や支援をしていきたい。

肺炎、入院、居場所失う

▼北海道・Nさん 78歳

妻の介護歴一四年。念願かなって「特養」に入所できたが、肺炎で入院したら痰吸引（二時間毎）患者になり、「特養」に戻れなく

なった。「特養」は重症者対応が不可能なので、入院中の病院からの退院後の受入施設がなく、居場所を失うことになった。

「特養」は「終の棲家」でないこともわかり、介護地獄に落ちいる。日本の介護福祉行政の貧困に頭を抱える。介護者絶望の声。

仕事をこの手に 取り戻したシニア

▼神奈川県・川崎百合子 66歳

暫く遠ざかって居りました。一年半ばかりの、ねばりの就活の末、介護と両立できる職を手に入れることが出来ました。障害者宅への訪問ヘルパーです。事業を閉じざるをえなかった無念な気持ち。介護専門「主夫」だけの日々だけでは虚しいの思い。受け容れていたでいて、五ヶ月。「生き生きとして見えるようになったね」と人から言われるようになりました。妻は、「デイサービス週二、デイクア週二、そして「きょう仕事に行つて来るからね」「きょうこんな仕事して来たよ」……「ふううん、お父さん、仕事してるん

だ」。掃除、買い物、料理、片付け、身体介助、入浴介助、ガイドヘルパー、有償輸送サービス（妻に対する介護と同じような事をやります）、やっと手にした介護との両立。いくつかの会合や趣味もこなしながら。妻はカラオケを生き甲斐に。要介護3から、今は要介護1に、アルツハイマー型、認知症。三年半目になります。

名古屋から大阪への 遠距離介護。母が 「命を絶つて」と懇願…

▼神奈川県・T・Hさん

平成一一年から平成一七年まで、実母の在宅介護を遠距離介護という形で行いました。当時は名古屋に仕事の関係で住んでおりましたが、週に一度もしくは二度、名古屋から大阪に帰って母の介護などを行っていました。当時は父と二人三脚で男一人で、介護の「か」の字もわからない状態で、特定疾患の難病になった母を最期まで介護した経験があります。男性であるがゆえ、頑張りすぎて苦しくなった事もしばしばあり、ま

た介護を受ける母から、自らの命を絶つてほしいと、懇願された経験などもあります。当時は本当に前を見て進む、生きる事だけを考えて家族で頑張っており、母が、誰にも相談できず日々悩み、悲しみの日々を送りながら、母の前では笑顔を作り接しておりました。そして、今年実父が重篤な病気に罹り、大きな手術を経験しましたが、約一〇ヶ月の入院生活の後、自宅に帰ることができず、大阪の有料老人ホームに入居いたしました。

私は現在母の介護をした経験を活かし、有料老人ホームや高齢者住宅向けのコンサルティングを仕事としており、同じように介護で悩んでおられるご家族の方に、少しでも私の経験が活かせていただければと思い、日々仕事をしております。

男性だから悩み、など沢山あると思います。今現在ご家族の介護で頑張っておられる方へ、私の経験がアドバイスになればと思っております。

去る平成二二年一〇月九日（土）に長野県にある上田温泉ホテル祥園にて開催された「男性介護者と支援者の全国ネットワーク交流会in長野」に参加してきました。

全国の男性介護者がつながり、広がることを目指して開催された今回の交流会は、全国の活動の様子をパネルディスカッションで紹介したり、介護当事者の語りによるリレートークなどが行われるプログラムで構成されていました。また、それらに先立ち、プログラムの始めに「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」（以下、男性介護ネット）が実施した、会員向けの調査結果の中間報告が行われました。

【一面・はさみこみ参照】

★パネルディスカッション

男性介護者の集まりを実施している兵庫県、東京都、長野県の活動の様子を聞くことができ、それぞれの思いや共通して挙げているポイントが見えてきました。特に、「語り合えることの重要性」と「つながることの力」の二点は、どの団体の話から共感できた大切なポイントと感じています。前者の「語り合えることの重要性」は、それぞれの思いを自由に吐き出せることに意義があり、理解してほしいなど特に余計なことではないとの事でした。誰もが抱

える悩みや課題に対して、同じ境遇にいる相手に話せること、それが何よりも大切だそうです。それを実現するためには、介護者自身が、集まりの場を単に参加するための場ではなく、自分の居場所として認識する必要があります。後者の「つながることの力」については、自分の居場所と認識してもらうためには居心地のよい場が必要で、それは閉鎖的な空間ではなく、開かれた場所であることがキーワードとなります。そうあることで、様々な方の参加とともに新しい形が作られ、支える側が同

時に支えられる側にもなる互換性が見受けられます。地域での関係が希薄化し、市民の社会的孤立が増えていく中で、地域の関係を紡ぎなおし、いざという時に支え合えるようになることは大切です。

★リレートーク

「言いっぱなし、聞きっぱなし」の他言無用のルールのもと、参加者からそれぞれの思いを各自の言葉で言うことが出来ました。参加者の中には満足な介護を行っている方もいれば、これからの介護に思いを馳せる方など多様な方々が集まっていました。「男は弱い、語りたい、自分一人ではなく周りの支えが必要」など様々な思いがあり、ただ、どれも当事者だからこそ言える言葉が詰まっていた。

▼今回の参加を通して、調査において現状把握を行い、実際に活動している団体からの報告や参加者のお話を聞くことで、とても多くの学びがありました。このような活動がさらに広がっていくことを期待しています。

運営委員・宮田

ワンポイントアドバイス

「下着の買い方」

今月のアドバイザー
訪問看護師・松村美枝子さん

自分の下着は自分で買っていますか。お母様や奥様に、全てお任せですか。お母様や奥様が急な入院で、看護師からパジャマや下着を用意するように言われたら、皆さんどうしますか。女性の下着は種類がありますね。ランジェリーは、若い方のおしゃれな物（ブラジャーやキャミソール）をさします。インナーは、シャツのことです。ボトムスは下半身用の下着で、ショーツ（パンツ）やロング丈の物（スボン）や三分丈、五分丈の物もあります。さて購入の方法ですが、まずはどのような物を使っているかを知ることが大切です。重ね着をしていることが多いですね。それがわかれば大手スーパーなどで、気のよさそうなオバサン系の店員に介護中であることを話し、探してもらいましょう。昔ながらの洋品店があれば店主に相談したり、ヘルパーさんにお願ひするのも良いでしょう。通販も便利です。中高年の下着は、「グンゼ」というメーカーが多く支持されているようです。くれぐれもサイズを間違わないように、本人に確認するか、今利用している物で確認しましょう！

皆さんの介護体験から生まれた
十人十色の介護ノウハウの
共通コーナーです

妻を看取られた
会員 石田和久
福岡県・福岡市

「悔いのない介護を!!」

昭和の一ケタ生まれの私は、元気な時にも手をつないで歩いた覚えはない、未成年生まれなので根は優しい!? 性格と生きているが、優しい言葉も掛けられ覚えはない。だが不言実行、共働きだったので娘二人の子育て当時は掃除洗濯は私の担当だった。だから介護が始まってこの点は問題なかった。

校區のママさんバレーや卓球で活躍していた妻は五三歳で、既にアルツハイマーの中期と診断され驚いた。買い物や料理も出来ていた。強いて言えば「アレ、昨日も刺身だったのにも今日もか!!」とか、「冷蔵庫を開けたら昨日の刺身が残っていた!!」ことがあったが、さほど気にならなかった。会社に何時に帰るかの電話をかけ、「六時頃だ」と切った途端にまたかかってくる。家を空けっ放し鍵も掛けずに迎

えに出てくる、迷子になる等々となり介護のため退職した。

「こんな年寄りばかりの所になんて来るの!」と落ち着かず、午前中、私も同行しお昼御飯を食べて一緒に連れて帰る、という生活が始まった。この間、夫婦で念願の退職記念旅行や植樹ワーキングツアードで、中国山西省大同市の農村へ植樹に出掛けた。

妻は慢性肝臓の悪化で入院。入院時にはトイレに行け、食事自分で食べられた、意思表示も出来ていたが3ヶ月で何もかも出来なくなり全介護・車椅子となった。拘束の跡を見た時、どうして連れて帰らなかったのだらう!!と無知を悔やんだ。

一〇ヶ月して退院の話が出たので、自宅をベッドからトイレ・浴室までワンフロアに

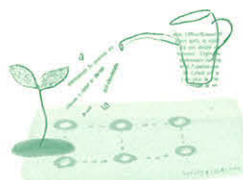
大改造した。マンションの二階なので天井が低くトイレに吊り具を付けるのに工夫がいった。市販品ではリフトの部品が頭に当たる、登攀用のザイルやカラビナを利用し、ダブルの滑車をコンクリートの釘で梁に取り付けた。

掴まり立ちをさせ背中を肩で支えながらパンツを下げトイレに座らす、裸にして入浴用のシャワー椅子に移すとき、相手が裸なので一番介護者の腰に配慮。それで工夫したのだが我ながらよく出来たと思っただけでも置いてある。入浴にも「裸みく」の水圧用リフトを取り付けた。ユニットの浴室に取り付けられたが室内用の車椅子に移すとき工夫がいった。

ハード面では満足した介護が出来たし、食事、妻にはドクターフーズを昼・夜用配達させ、私は具一杯の味噌汁や刺身・冷奴等を用意し半分ずつ食べた。朝食はパン食、トマトにヨーグルトを欠かさず食べさせ便秘に対応した。

私のストレス発散は、介護保険のショートステイを毎月利用し植樹ツアーにも連続して参加した。初めて利用するときは折角落ち着いているのに大丈夫かな!と心配したり、施設に預けて自分だけ相済みぬ!と思っただけ、心身ともに文字通りリフレッシュして、新たな気持ちで優しい介護が出来た。

在宅介護はマンツーマンで介護するのだから絶対に本人のためだ。だが一人では大変困難だ、二人おれば楽だろう、このギャップは訪問介護を上手に使い乗り切って欲しい。施設も上手に使い、我が家にショートステイに来る、という対応がベターだと私は信じている。





北海道 2月26日(土) AM1:00~PM2:30

男性介護者向け料理教室とつどい(つどいはPM1:10~)→ハローガス2階「クッキングスペース」お一人1,000円(食事つき) / R☆Sジンジャー 男性介護者と支援者のつどい(担当:高柳)

宮城 1月13日(木) PM1:00~3:00

男性介護者のつどい→みやぎNPOプラザ/認知症のひとと家族の会宮城県支部(☎022-263-5091)

長野 1月8日(土)

ミーティング→小諸市/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

1月23日(日)~24日(月)

上田・小諸合同新年会→上山田温泉/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

2月5日(土)

ミーティング→上田市/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

2月12日(土)

ミーティング→小諸市/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

3月5日(土)

ミーティング→上田市/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

3月12日(土)

ミーティング→小諸市/シルバーバックの会(☎0268-72-8039)

神奈川 2月27日(日) PM2:00~4:00

素敵なシニアの“生き方”第二弾講座「老いじたくのススメ」野原すみれ氏→アートフォーラムあざみ野2階 セミナールーム(参加費500円 1月15日より受付開始) / 男性介護者サポートネットワーク「かいご勝手連」Eメール: kaigo-k@live.com FAX.045-982-0051

東京 2月5日(土) AM10:30~

東京交流会「家族で考えるつどい」基調講演: 地域で支える家族介護→三鷹駅前コミュニ

ティーセンター/東京都社会福祉協議会 東京ボランティア市民活動センター(☎03-3235-1171 / FAX.03-3235-0050 .http://www.tvac.or.jp/)

滋賀 2月26日(土) PM1:00~4:00

男性介護者のつどい→場所未定/認知症のひとと家族の会滋賀県支部(☎077-567-4565)

京都 2月4日(金) PM1:00~3:30

男性介護者のつどい→京都社会福祉会館認知症のひとと家族の会京都府支部(☎075-811-8399)

3月12日(土) PM1:00~4:30

男性介護研究会シンポジウム→立命館大学衣笠キャンパス・以学館4F・5号教室 基調講演: 早瀬圭一先生(定員350名、事前申込不要) / 立命館大学人間科学研究所事務局(☎075-465-8358)

毎月第2・(木) AM11:30~PM14:00

男性介護者のつどい「TOMO」→喫茶「ほっとはあと」西大路御池西入る 地下鉄東西線「西大路御池」3番出口(参加費:実費(飲食代)・事前申込不要) / 男性介護者を支援する会(☎075-882-2256 FAX075-882-2257 Eメール: biokyoto@arion.ocn.ne.jp 代表:山内)

兵庫 1月13日(木) PM1:00~3:00

男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→宝塚市ふれあい鹿嶋の家 / NPO法人スマイルウェイ(☎0797-62-9320)

1月20日(木) PM1:00~3:00

男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→伊丹市力湯 / NPO法人スマイルウェイ(☎0797-62-9320)

1月29日(土) PM1:00~3:00

男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→宝塚市社会福祉協議会 小林よりあいひろば / NPO法人スマイルウェイ(☎0797-62-9320)

毎月第1金曜 PM1:00~3:00

定例会(介護者支援講演会、勉強会、親睦会、

介護者への支援訪問等)→いたみいきいきプラザ 会費1,000円(年間・お茶菓子代) / 伊丹市社会福祉協議会

鳥取 3月5日(土) PM1:00~4:00

認知症のひとと家族を支援する相談活動講演会「男性が介護するということ」→北米町/認知症のひとと家族の会鳥取県支部(☎0859-37-6611)

大分 2月18日(金) PM1:00~4:00

男性介護者のつどい→いきいき健康室/認知症のひとと家族の会大分県支部(☎097-552-6897)

4月21日(木)予定 PM1:00~3:00

男性介護者のつどい→いきいき健康館(※22日予備日) / 認知症のひとと家族の会大分県支部(☎097-552-6897)

長崎 2月8日(火) PM1:30~3:30

男性介護者のつどい→させば市民活動交流プラザ/認知症のひとと家族の会長崎県支部(☎095-842-3590)

募集 男性介護通信では「つどい」情報をお待ちしています。



全国の男性介護者の集いの情報を募集しています。下記アドレスまでお知らせ下さい。通信とホームページに掲載いたします。

E-mail: info@dansei-kaigo.jp

- ①都道府県、②日時、③名称→場所、④連絡先をお書き下さい。

各都道府県で複数ある場合は日付の古い順でご記入下さい。

会員のみなさまへ寄付のお願い

男性介護ネットは、発足2年目で会員数500名を超える団体へと飛躍的に拡大しました。今後もより積極的な活動を進めていきたいと考えております。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。会費納入と併せて寄付にもご協力いただければ幸いです。

■会員の種別と年会費

正会員(個人)	正会員(団体)	賛助会員
一口1,000円	一口3,000円	一口10,000円

■振込先 郵便局 00910-4-194420

男性介護者と支援者の全国ネットワーク

そんな温かい雰囲気の中で津止正敏教授の男性介護者の介護現状の講演のあとは、近隣の県別に分かれて交流をしました。同じ立場の仲間に出会えたこと、話せばすぐに分かりあえることの安心からあつという間に時間が過ぎ、今後の連絡係を岡村敏治さんが引き受けることを宣言され閉会となりました。孤立から解放された瞬間でした。

(鎌田松代)

後編 編集集

Vol. 6

一月二〇日(日)九州で初めての交流会を開催しました。参加者は九州各県から四〇名、男性介護者は二五名。開催の準備では「認知症のひとと家族の会」福岡県支部の岡村敏治さんが会場の予約や当日は女性世話人さん、代表の内田秀俊さんから支部をあげて細かい配慮と準備で応援していただきました。

